

米国金融政策（2023年12月FOMC）

政策金利を3会合連続で据え置き、事実上の利上げ打ち止めに

2023年12月14日

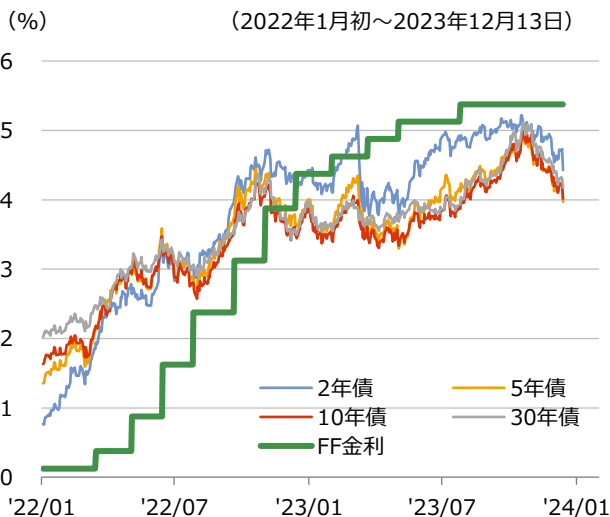
FOMC参加者の金利見通しは2024年中に3回の利下げを示唆

FRB（米国連邦準備制度理事会）は12月12～13日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利の据え置きは3会合連続です。また、国債やMBS（住宅ローン担保証券）の保有額縮小を計画通り実施していくことも再確認しました。

12月FOMCに先駆けて、パウエルFRB議長などは講演で政策金利が十分に景気抑制的な水準に到達しつつあることを指摘していました。声明文では利上げ打ち止めを意味する文言はありませんが、パウエル議長は記者会見で「利下げの議論が始まったところだ」と述べ、金融引き締めからの転換を示唆しました。また、FOMC参加者のFF金利見通しは全体的に下方修正され、2024年は中央値で3回の利下げ（累計0.75%ポイント）を示唆しました。市場参加者の間では利下げを巡って景気後退懸念も燦々していますが、議長は「見通しに即した利下げは景気の弱さを意味するものではない」と否定しています。

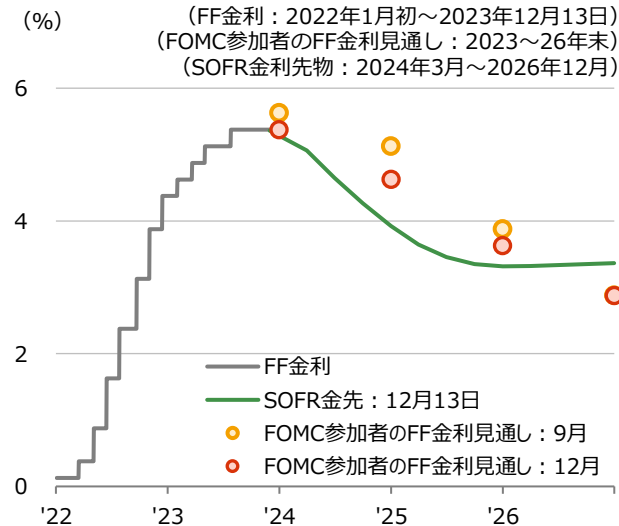
パウエル議長が利下げに対して市場の想定以上に前向きな姿勢を示したことを受けて、金利はFOMC後も全般的に大きく低下しました。FF金利先物では3月の利下げ開始期待が7割強へと上昇したほか、2024年を通じて約1.5%ポイントの利下げを織り込むなど、金融緩和期待が高まっています。利下げ開始時期については雇用指標を中心とするデータが焦点となりそうです。

FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFR：担保付翌日物調達金利 (出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management